



# CHUO REPORT 2019

会社案内・CSR-環境レポート





**現場の声を、  
未来のカタチに**

お客様の声をお聞かせください。  
中央化学は食の安全・安心や環境問題への関心の高まりに応えるべく、新素材や機能の開発、食卓を彩るデザイン性で豊かな食文化に貢献してきました。  
環境対応でアピールしたい、消費期限を延ばしたい、調理作業を効率よくしたいなど、お客様のさまざまな声を現場に精通したプロフェッショナル達がこれからもカタチにしていきます。







代表取締役社長

近藤 康正

# 全員創意、変える意識、 変わる中央化学。 モノ造りの原点に立ち返り、 成長ステージへ着実に前進。

## オペレーション改革を起点に、 成長ステージへ

2018年4月社長就任後、業績の建て直しに取り組み、強靱な企業体質に変革すべく構造改革を進めてきました。成長戦略への打ち手としては、まだ道半ばではありますが、3期ぶりに黒字化を果たし、手応えを感じる成果を得ることができました。

そして、次のステップとして進めていることは、将来の成長戦略に向けた、会社の真の実力向上への取り組みです。「オペレーション改革」として、製造、販売、物流3コア機能の強化、および、その連携を通じ一貫したモノ造り体制を構築します。

食品包装容器業界の事業環境はめまぐるしく変化しています。物流タイト化、人手不足など社会構造の変化に加え、食品ロス削減、二酸化炭素排出削減、海洋プラスチック問題等、環境関連への対応が待ったなしの状況にあります。

市場の変化、お客様のニーズをいち早く察知し、課題解決に具体的なご提案をしていくためにも、製・販・物の各部門が組織の壁を越えて連携する、一貫したオペレーション体制が必須であると認識しています。

## 事業推進室の3大ミッション

このオペレーション改革を遂行する社長直轄組織として、2018年10月に「事業推進室」を立ち上げました。製・販・物の各実務に精通する社員を集め、オペレーションに関わる課題を洗い出し、その解決への道筋等を集中討議しています。

事業推進室には、3つのミッションを与えました。

一つ目は、受注から生産、物流までのモノ造りフローにおいて、販売・生産計画のすり合わせを徹底し、ムリ・ムダを排除するSCM(サプライチェーンマネジメント)体制とルールの構築。

二つ目は、激変する事業環境に対応した将来的なモノ造りのあり方。

三つ目は、世界的な環境意識の高まりを踏まえ



た、新素材・新製品の開発、ならびに、成長市場へのアプローチ。

SCM体制とモノ造りの基盤強化を通じ、「品質」、「競争力」、「提案力」を高め、お客様満足度の向上に最善を尽くします。

また、新素材・新製品の開発、成長市場へのアプローチについては、人手不足、高齢化、単身世帯増加、ライフスタイルの変化、消費増税などの社会構造変化への対応に加え、環境関連事業への拡充を図っていきます。

もともと当社の環境への取り組みは早く、1990年代に店頭でのトレー回収やリサイクルを始めており、容器が使われた地域と同じ地域、あるいは近隣でリサイクルする仕組みを構築しています。

環境に配慮した新素材の開発にも力を注いでおり、現在3つの特長ある素材・製品を開発・提供しています。

一つ目は、消費期限を延長し、食品ロス問題の解決に貢献するガスバリア容器「Ever Value®」。

二つ目は、鉱物の一種であるタルクを51%以上含有し、石油由来資源の使用を抑える素材「タルファー」。

三つ目は、再生PET原料を用いた環境負荷低減素材「CHUO A-PET GREEN (C-APG)」。

バージンPETに比べ、二酸化炭素排出量を削減でき、かつ、業界の自主規制基準に適合し、安全性を確保した素材です。

こうした環境や社会課題の解決に繋がる新素材の開発は、原材料、素材メーカーとの共同開発も

必要で、三菱商事グループ企業含め、他企業との協業を進め、環境対応製品の拡充を進めてまいります。

素材・製品の開発、販売にとどまらず、社外との連携を含め、体系的に環境関連事業に対応すべく、その専任組織として「環境・リサイクル室」を立ち上げました。環境意識は、当然のことながら、化学にとどまらず各業界で急速に高まっており、素材メーカー等の関係企業が集まって問題解決のイノベーションを推進する「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (CLOMA)」が設立されました。当社もこれに加盟し、今後は、環境・リサイクル室が中心となって、参加企業とともに海洋プラスチックごみ問題に取り組んでまいります。

トップランナーとして走り続けていたときには、お客様第一主義、現場第一主義が徹底されてきました。企業文化は「器とともに生き、学ぶ」というものでした。そしてモノ造りにとどまらず、業界では最も早く環境対応に取り組んでまいりました。

その原点に回帰する。意識改革を行い、改めて、お客様に向き合い、現場で付加価値を生み出す。結果を出して、社会的責任を果たすとともに、お客様が「買って良かった」、社員全員が「働いて良かった」と思える中央化学に変わる。これが2019年度スローガンの本質です。

オペレーション改革には、2019年度、2020年度と二年がかりで全力で取り組みます。そして原点回帰、意識改革を通じて、倫理観を持ったプロ集団として、社会に価値を生み出す存在感ある会社であり続けるよう、真摯にたゆまぬ努力を続けてまいります。

### 創業の精神に立ち返り、倫理観をもったプロ集団へ

2019年度の当社スローガンは、「全員創意、変える意識、変わる中央化学」です。

「全員創意」は創業者が示した、「全員が自分で考え、無限の可能性に向けてチャレンジを続けていく」との社是です。

当社は1961年に設立され、創業者の類まれな才能と強いリーダーシップで、勢いのある新興企業として成長し、80年代後半に米国、90年代半ばに中国に進出し、食品包装容器業界のトップランナーとして走り続けてきました。しかし事業の成長とともに組織が大きくなり、変化への対応スピードが落ち、同時に創業の精神、モノ造りの原点を忘れつつあったことは否めません。



社是

全員創意

企業理念

**1. 企業姿勢**  
私たちは、社是「全員創意」のもとに豊かな発想と積極果敢な行動で世界の生活と文化をサポートする企業集団を目指します。

**2. お客様**  
私たちは、より良い品質とサービスで、お客様の満足と信頼を得る企業を目指します。

**3. 社員**  
私たちは、失敗を恐れずあらゆる課題に積極果敢に挑戦し、社会の発展と自己の実現を目指します。

**4. 社会との調和**  
私たちは、地球環境の保全と限りある資源の保護に努め、国内外の地域文化を尊重し、社会との調和に努めます。

**5. 株主**  
私たちは、株主の投資に対する期待と信頼に十分応えられるように努めます。



# CONTENTS

- 04 トップメッセージ
- 08 拠点一覧
- 10 中央化学のあゆみ
- 12 事業概要
- 16 カテゴリー別製品紹介
- 18 社会を変える中央化学の容器
- 22 店頭回収リサイクルの仕組みについて
- 24 地域と連携した3つのリサイクル
- 26 持続可能な発展を支える中央化学の取り組み

## 社会とのつながり

- 28 安全・安心をご提供するために
- 30 取引先とともに／株主・投資家とともに
- 31 従業員とともに
- 34 地域社会とのつながり

## 環境とのつながり

- 36 環境マネジメント
- 38 事業活動におけるマテリアルバランス
- 39 環境への配慮
- 41 廃棄物・水の削減

## マネジメント

- 42 コーポレート・ガバナンス
- 43 コンプライアンス

## 編集方針

環境への取り組み、CSR活動の状況や考え方、取引先・地域の皆さまとの交流に関する情報を、皆さまに分かり易くご報告するだけでなく、中央化学グループとしての企業活動全体をご理解いただくことを目的に毎年発行します。

● **報告対象期間**  
2018年4月1日～2019年3月31日  
当レポートは、2018年度の活動を中心に報告しています。

● **発行**  
2019年8月

● **報告対象組織**  
原則として中央化学グループ(中央化学㈱および国内・海外連結子会社)を対象としており、環境データ、人事データは国内単体で報告しています。

● **参考にしたガイドライン**  
環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

● **免責事項**  
当レポートは中央化学グループの過去と現在の状況だけでなく将来についての計画や業績に関する予想および見通しの記述が含まれています。これらの記述は、当社が現時点で把握可能な情報に基づいた判断であり諸条件の変化により、将来の事業活動の結果が予測と異なる可能性があります。

# 拠点一覧

事業所		
1	本社	〒365-8603 埼玉県鴻巣市宮地3丁目5番1号 TEL.048-542-2511(代表) FAX.048-540-1227
2	東京オフィス	〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目6番4号 新大崎勤業ビル(大崎ニューシティ4号館) TEL.03-5719-7640(代表) FAX.03-5719-6975
3	北海道営業部	〒003-0027 北海道札幌市白石区本通19丁目北1番1号 TEL.011-862-7827(代表) FAX.011-862-7859
4	東北営業部	〒984-0032 宮城県仙台市若林区荒井7-50-1 TEL.022-287-6061(代表) FAX.022-288-5582
5	関東営業部	〒365-8603 埼玉県鴻巣市宮地3丁目5番1号 TEL.048-540-1234(代表) FAX.048-541-2910
6	中部営業部	〒482-0023 愛知県岩倉市中央町1丁目8番地中央ビル TEL.0587-66-8211(代表) FAX.0587-66-8219
7	関西営業部	〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島4丁目1番1号 日清食品ビル6階 TEL.06-6305-2611(代表) FAX.06-6305-2027
8	中四国営業部	〒730-0041 広島県広島市中区小町3番25号三共広島ビル2F TEL.082-241-8022(代表) FAX.082-241-4103
9	九州営業部	〒813-0034 福岡県福岡市東区多の津1丁目14番1号FRCビル3階 TEL.092-622-2358(代表) FAX.092-622-2398
配送センター		
10	北本配送センター	〒364-0011 埼玉県北本市朝日2丁目160-1 TEL.048-590-5101(代表) FAX.048-591-1500
11	中部配送センター	〒501-3924 岐阜県関市迫間字栄2855-1 TEL.0575-21-5018(代表) FAX.0575-24-0835
12	関西配送センター	〒559-0021 大阪府大阪市住之江区柴谷2-8-45 TEL.06-7175-1787(代表) FAX.06-7175-1788
13	西日本ハブセンター	〒709-4245 岡山県美作市竹田145-25番地 TEL.0868-75-1766(代表) FAX.0868-75-1789
14	福岡配送センター	〒811-2301 福岡県糟屋郡粕屋町大字上大隈字居尻197-1 TEL.092-938-0615(代表) FAX.092-938-0616

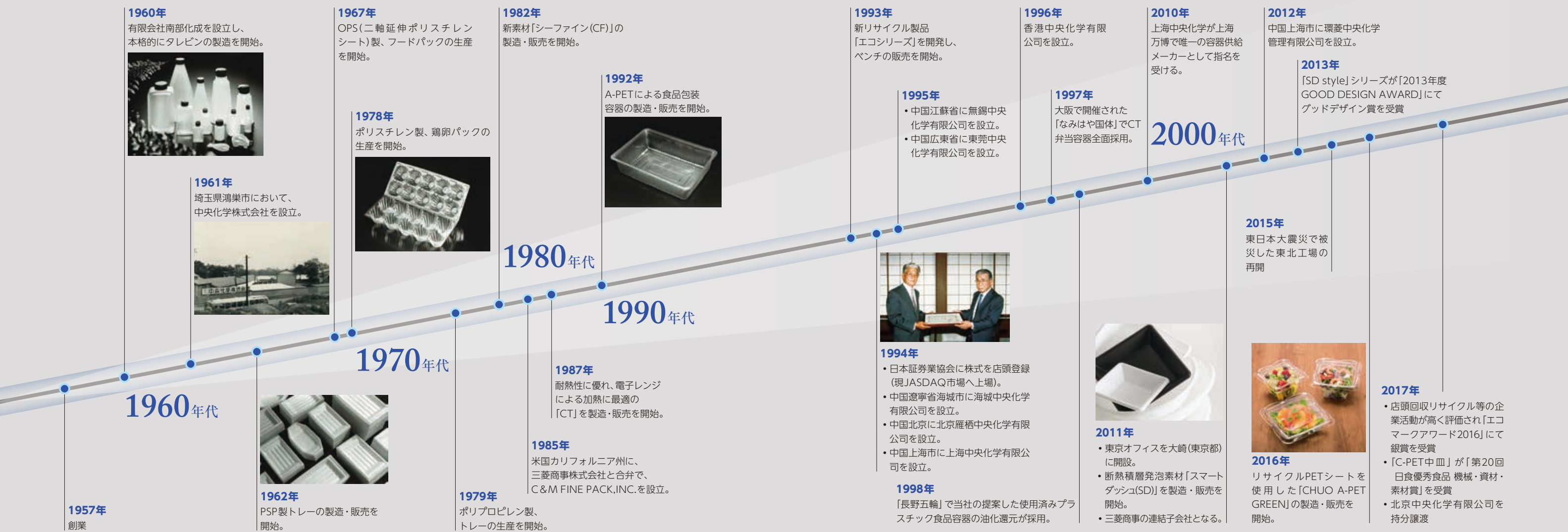
工場		
15	北海道工場	〒079-0263 北海道美唄市日東町住吉 TEL.0126-65-2311(代表) FAX.0126-65-4311
16	東北工場	〒963-4602 福島県田村市常葉町常葉字富岡101番地 TEL.0247-77-2257(代表) FAX.0247-77-2450
17	関東工場	〒349-1212 埼玉県加須市麦倉1701番地1 TEL.0280-62-3151(代表) FAX.0280-62-1116
18	鹿島工場	〒314-0255 茨城県神栖市砂山20-1 TEL.0479-46-3515(代表) FAX.0479-46-3517
19	騎西工場	〒347-0111 埼玉県加須市鴻茅310番地 TEL.0480-73-2117(代表) FAX.0480-73-2097
20	山梨工場	〒409-2196 山梨県南巨摩郡南部町富士28505番地4 TEL.0556-66-3211(代表) FAX.0556-66-3224
21	岡山工場	〒707-0014 岡山県美作市北山321番地 TEL.0868-72-4919(代表) FAX.0868-72-4918
22	九州工場	〒879-7413 大分県豊後大野市千歳町下山2410番地 TEL.0974-37-2121(代表) FAX.0974-37-2680
関連会社		
23	APET ウェスト株式会社	〒590-0535 大阪府泉南市りんくう南浜4-11

子会社(日本)		
24	株式会社中央運輸	〒707-0014 岡山県美作市北山321番地 TEL.0868-72-5625(代表) FAX.0868-72-5626
子会社(中国)		
25	環菱中央化学管理有限公司	住所: 上海市紫秀路100号四幢A棟5楼B室 TEL.021-64057653 FAX.021-64057662
26	海城中央化学有限公司	住所: 遼寧省海城市牌楼鎮經濟開發区 TEL.0412-3774777 FAX.0412-3773197
27	無錫中央化学有限公司	住所: 江蘇省江陰市徐霞客鎮(璜塘)環東路256号 TEL.0510-86533881 FAX.0510-86533200
28	東莞中央化学有限公司	住所: 広東省東莞市企石鎮清湖村 TEL.0769-86788666 FAX.0769-86787589
29	香港中央化学有限公司	住所: 香港新界葵涌和宜合道103-107号百新大廈5楼5B2-5B3室 TEL.852-2429-8008 FAX.852-2429-8071



# 中央化学のあゆみ

2019年8月1日現在



## 社会動向

<b>1964年</b> 東京オリンピック開催	<b>1973年</b> 第一次 オイルショック	<b>1978年</b> 第二次 オイルショック	<b>1985年</b> つくば 万博開催	<b>1986年～</b> バブル景気	<b>1989年</b> 「昭和」から「平成」へ。 消費税導入	<b>1995年</b> 阪神・淡路 大震災	<b>1997年</b> 消費税5%へ 引き上げ	<b>1998年</b> 長野オリンピック	<b>2002年</b> サッカーワールド カップ日韓大会開催	<b>2005年</b> 愛・地球博(愛知万博) 開催	<b>2008年</b> リーマンショック	<b>2011年</b> 東日本大震災	<b>2014年</b> 消費税8%へ 引き上げ	<b>2019年</b> 「平成」から 「令和」へ
----------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-----------------------------	------------------------	---------------------------------------	------------------------------	--------------------------------	--------------------------	---------------------------------------	-----------------------------------	--------------------------	------------------------	--------------------------------	---------------------------------

## 会社概要

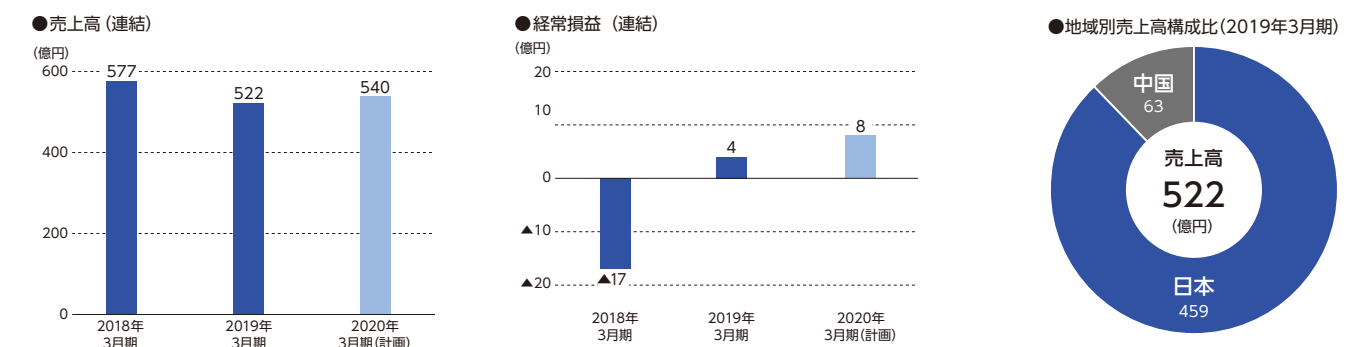
2019年3月31日現在

会社名	中央化学株式会社
本社所在地	埼玉県鴻巣市宮地3丁目5番1号
設立	1961年1月(創業1957年)
資本金	72億1,275万円
売上高(連結)	522億6,100万円
従業員数(連結)	1,751人
事業内容	プラスチック食品包装容器およびその関連資材の製造・販売を 主な事業としています

## 役員一覧

代表取締役社長	近藤 康正
取締役	森本 和宣
取締役	早澤 幸雄
取締役	竹内 修身
取締役	萩原 剛
取締役	松本 吉雄
常勤監査役	大吉 正人
監査役	山口 吉一
監査役	鳥居 真吾
監査役	中村 竜一

## 業績





# 事業概要

お客様の声を素材開発や製品開発に活かすモノづくりで、各部門のスタッフが連携して、お客様に満足いただける製品を提供します。

## 1 素材開発

## 2 マーケティング

## 3 製品開発 (製品設計・試作技術)

1



### 素材開発

お客様のニーズに沿った製品の製造・販売を行う上で、その原料となる素材の開発は欠かせません。中央化学は創業以来、自社内で数々の新素材を開発してきました。現在は素材メーカーとの連携体制を組むことにより、より技術的難易度の高い安全・安心かつ環境負荷低減素材の開発にも着手しています。

### 製品開発



### 製品設計

製品設計は「価値の提案」「課題の解決」をコンセプトに、製品の形状・色柄のデザインを行います。新製品の企画、デザイン、立ち上げまですべての業務に関わる部門になります。

「省資源」「オートメーション化」「ライフスタイル変化」といった社会・環境の課題に、容器を通していかに解決するかを考え、知識やノウハウを標準化し、意匠、ブランド化にも力を入れて当社独自の素材をフィーチャリングし、未来に向け新たな価値を創造します。

3



## 2 マーケティング

マーケティングは、製品やサービスの提供ならびに販促活動を行っています。“食”に関わる市場全体から“お客様に寄り添う”ことで現在の状況や今後の動きを考察し製品開発につなげています。

また、昨今のさまざまな市場や環境の変化に対応するため、社内外を問わず連携を深める架け橋になり市場創造のための総合的活動を行っています。



フレール：女性だけで構成したマーケティングチーム

### 試作技術

試作技術は、3Dモデル作成から加工、試作品までを作成しています。大きく3つの目的を持った試作品作りを目指しています。

- ①新しい機能やシート開発など「将来を見据えた試作品」、②設計したモノを具現化し事前に問題点を洗い出す「品質評価の試作品」、③お客様のニーズを解決するための「新製品の試作品」。

目的に合わせて多種多様な要望があり、特に近年環境素材の案件も多く、また新しいデザインなどにもチャレンジしています。モノ造りの起点であり、製造の一連の流れを熟知するスタッフが責任を持って、試作結果を関係部署へフィードバックし良いモノ造りをして社会貢献をします。





## 4 品質保証

## 5 製造

## 6 物流

## 7 営業

## 8 リサイクル

お客様へ安全・安心な製品をお届けするため、食品衛生法などの法規制、業界自主基準を遵守し品質保証を徹底しています。製品企画・開発→設計→製造→販売に至る各工程で品質・安全衛生の確認や、生産工場への定期監査による不適合事項の是正・改善を通じ、品質保証体制の継続的な向上を図っています。また行政や関連業界、お客様からの安全衛生や品質に関する最新情報は社内でも共有し改善活動へつなげています。



### 製造

中央化学では全国8カ所に工場を有しており、各工場では、原料からプラスチックのシートを作る押出工程と、押出工程で作ったシートを実際の容器の形にする成型工程の2工程に分かれています。近年各工場の生産体制を見直し、生産拠点を最適化することで、生産効率の向上を図っています。

また、お客様へ安全・安心な容器を提供するため、各工場では「整理」「整頓」「清掃」など安全衛生管理に努めています。

### 物流

ドライバー不足など物流を取り巻く環境が厳しくなる中、お客様へのサービス低下を招かないよう同業他社との共同配送など配送効率化の取り組みを一部エリアにて開始、2019年5月には関西配送センターを新規開設しました。今後もさらなる配送効率化・車両有効活用に向け、共同配送の拡大、定曜日配送の検討および幹線車両の一元管理など、運ぶ集団から利益を稼ぐ集団への変革をテーマに取り組みを行ってまいります。



### 営業



当社の営業スタイルは、お客様に誠意をもって丁寧に引き合い、常にWIN-WINの関係を目指しています。近年、お客様のニーズは多種多様になっていますが、お互いの課題を共有し、対話を通して知恵を出し合いながら、解決できる製品提案を行っています。その提案力の背景には、あらゆるニーズに対して、素材レベルからの製品提案ができることで、北海道から九州まで全国にある営業拠点を通じて、一歩一歩お客様に安心してお付き合いいただけるメーカーを目指し日々活動しています。

### リサイクル 8

当社では食品容器メーカーの自主的な取り組みとして、使用済み食品容器の回収・リサイクルに取り組んでいます。

- マテリアルリサイクル：溶かすなどして、もう一度プラスチック製品にして利用します。
- ケミカルリサイクル：熱や圧力をかけて、化学反応によって基礎化学原料などに戻して、そこから新しい原料（樹脂など）に再生します。
- サーマルリサイクル：燃料として蒸気や発電などに利用します。



再生原料



# カテゴリー別製品紹介

中央化学では、環境に配慮した安全・安心な素材開発から、さまざまなニーズに対応できる多彩な食品容器をバリエーション豊かに取り揃えています。

製品検索システム  
CHUO NAVI



CHUO GUIDE 2019  
中央化学の総合ガイド



## テーブルウェア

CHUO GUIDE 2019: P.14

そのままテーブルにセッティングできる洗練されたデザイン。シンプルなモノトーンでテーブルをコーディネート。



●沙楽紺  
シンプルな造形で売り場から食卓までを上質に演出

## 弁当

CHUO GUIDE 2019: P.22

優れた素材特性を活かした弁当容器を揃えました。



●リル  
メイン訴求型ワンプレート

## 寿司

CHUO GUIDE 2019: P.114

新鮮な旬のネタをより上質に豪華に魅せる寿司専用容器。自然な風合いに華やかさを兼ね備えたデザインを2貫用から大型の桶タイプまで幅広く揃えました。



●陶水皿  
寿司を魅せる陶器の趣き

## 刺身

CHUO GUIDE 2019: P.136

刺身を魅せる洗練されたデザインを多彩に取り揃えました。粋においしさを表現するこだわりの数々。



●旬花  
透明で魅せる、旬の鮮度感

## 折箱

CHUO GUIDE 2019: P.48

食材を上質に見せ、高級感を演出する厳選折箱シリーズです。



●CWA  
高級感のある見映えを追求

## 丼

CHUO GUIDE 2019: P.64

人気の定番メニューから最新メニューまで。丼物の手作り感とボリューム感を大切に、メニューに合わせた素材と形状を数多く揃えました。



●波音丼  
フランジの大きな存在感

## 鮮魚

CHUO GUIDE 2019: P.152

素材の鮮度をストレートに表現できる容器を取り揃えました。高機能容器で現場も食卓もサポート。



●FST  
パパッと振り出せる小魚用容器



特注でシールも承ります

## 精肉

CHUO GUIDE 2019: P.162

焼肉やしゃぶしゃぶはもちろん、昨今の時短ニーズにも対応した幅広いラインアップで肉を引き立てます。



●豊月  
スローブ形状で見映えが変わる

## 軽食

CHUO GUIDE 2019: P.76

カジュアルなランチシーンに最適な容器のご提案。使いやすさや機能性に優れたラインアップを揃えました。



●ボレノ  
ほどよい深さと絶妙な質感

## 惣菜

CHUO GUIDE 2019: P.84

使いやすさにこだわった優れた機能と、飽きのこない色柄。惣菜メニューの全てに対応する容器を揃えました。



●遊  
セット惣菜に、遊び心のある器

## 青果

CHUO GUIDE 2019: P.174

野菜やフルーツの彩りと季節感を引き立てる青果容器。サラダにも使いやすいラインアップを揃えました。



●トルク  
中皿使用で沈み込みも解決

## 汎用

CHUO GUIDE 2019: P.190

衛生管理、鮮度管理、ロス率軽減など食品流通には欠かせないトレー。中央化学ならではのサイズラインアップを揃えました。



●Cトレー  
(大型サイズにはCJトレー)





捨てられる前提でのワンウェイ容器は見た目よりも強度や機能、価格が優先されやすい傾向にあります。しかしながら、料理のグレードや質は容器に入った印象で決まるもの。シンプルなカラーで、美しく使いやすいSD styleなら、料理を引き立て、洗練されたお店のイメージをそのまま一皿に表現できます。ランチョンマットにすっきり配置できる設計で食卓のコーディネートも完成するスマートなシリーズです。試食やパーティーにも活用可能です！



容器で社会を変えていく! ①

テーブルコーディネートが完成 SD styleシリーズ

社会を変える中央化学の容器

ニーズに応える提案力で 信頼されるパートナーに

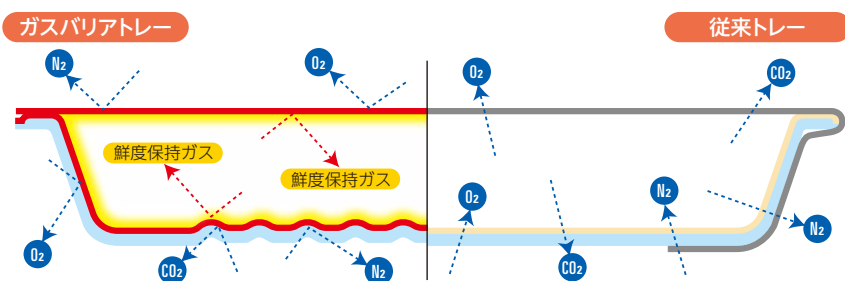
ライフスタイルの多様化で消費行動が大きく変化し、求められるニーズも多岐にわたってきています。中央化学は、安全・安心な製品を提案して、お客様のニーズにお応えします。

容器で社会を変えていく! ②

食品ロス削減のための 食品のロングライフ化 ガスバリア容器

ガスバリア容器とは、食品用ガス(窒素・酸素・二酸化炭素の配合を調整したもの)をフィルム容器内に密閉し、食品の酸化・菌の増殖を抑制することにより、従来品よりも鮮度を保持できる容器のことです。肉や魚、野菜などの生鮮食品を長持ちさせ、消費期限延長を促進し、食品ロス削減に貢献します。

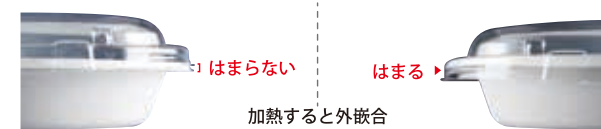
また、販売・製造オペレーションの簡素化、作業負担軽減にもつながる機能を持った容器です。



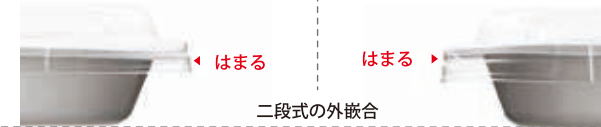
加熱調理前

加熱調理後

通常の蓋



ステップ嵌合蓋



スイッチ嵌合蓋



スチームコンベクション(220℃)による調理ができます。C-PETを使用することで食品加工センターから店頭販売、消費者の電子レンジによる再加熱までトータルで盛りかえることなく食卓へお届けが可能です。加熱調理前にも閉められる蓋(スイッチ嵌合蓋/ステップ嵌合蓋)が作業の一元化を図ることができ、オペレーション効率が大幅に向上します。

容器で社会を変えていく! ③

省人化とオペレーション効率の改善で おいしさを食卓までお届け スチコン対応容器 「C-PET」



容器で社会を変えていく! ④

伸長する調理キットの店頭販売、宅配サービスに応える 調理キット専用容器「C-APG クイック」



キット化された食材を、あらかじめ用意されたレシピに沿って調理するだけで、手軽に美味しい料理ができ上がる「ミールキット」。共働き世帯をはじめ、若い世代・シニア層にも認知され、需要が伸びることから、今では宅配サービス以外にスーパーやコンビニ等でも店頭販売の取り組みを強化しています。クイックは中身がよく見えるシンプルな形状で、量目を選べる大中小の3サイズを展開しています。環境に配慮したリサイクル素材のC-APGを使用しています。

環境配慮型製品であるC-APG素材をはじめ、中央化学は使用済みプラスチック食品容器の自主的な店頭回収や、リサイクル技術の継続的な開発への取り組みを続けていきます。



## 注目製品

### メイン訴求型プレートで、ひと味違うお弁当

カフェメニューで人気のワンプレート風の盛り付けができる容器です。メインの肉、野菜、ごはんを、彩り良くぎゅっと盛りつけ、おかずの種類が少なくてもボリューム感を出せます。

# リル

RIRU SERIES



#### プレート弁当に注目した理由 ①

人手不足から作業工程を抑えた弁当づくりが主流になってきた。

#### プレート弁当に注目した理由 ②

おかずの種類を減らし、肉も野菜もごはんも彩り良く、ぎゅっと盛るワンプレートがトレンド。

### メニューに合わせたカラーバリエーションを用意



クリーム  
×  
紺

黒  
×  
白

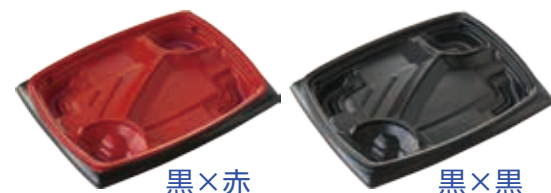
女性向けのメニューにぴったり。上品で視認性の高い「ブルー」にこだわりました。

和・洋・中、どの料理でも合い、相手を選びません。

Close  
Up

#### ワンランク上の 商品展開!

本体、中容器、蓋のある3点式に見えますが、実は2点式。印刷で中容器があるように見せています。2点式なのに3点式のようなワンランク上の商品展開が可能です。



黒×赤

黒×黒

ここがスゴイ!

## リルのPOINT



側面外嵌合で蓋がぶつかり合わない



2段の底形状でボリュームアップ!

ふっくら  
ボリュームに  
見える太鼓型形状



水滴誘導のくぼみで  
水滴漏れを防止!



持ち上げやすい形状、開けやすい  
ツマミ、手に取りやすい高さ

#### こだわりはココ!

##### ① 現場でも売り場でも作業効率アップ

料理の盛り付け後は閉めやすく、ぶつかっても開かない、それでいて食べる時は開けやすい嵌合強度を目指しました。蓋を固定するテープが不要で、省力化に貢献します。

##### ② 中身の飛び出し事故を未然に防止

物流現場でも売り場でも隣り合った蓋同士がぶつからないデザインなので、蓋が開いて中身が飛び出す心配がありません。本体が潰れたり、蓋がへこんでしまわないよう、容器全体の強度に配慮して設計しています。

##### ③ ボリュームミーな盛り付け

お弁当全体を大きく見せられるよう、全体のシルエットを太鼓型にして、外側に向かってスカート型のフランジ形状にしました。四隅に脚を設けることで弁当自体を高く盛り上げ、2段階式の底形状で、ごはんやおかずを盛り付けるときもボリュームが出しやすい設計になっています。

### 自慢のロングセラー 誰でも知っている自慢のロングセラー商品「タレビン」

1957年、創業者の渡辺浩二は、当時注目され始めていたプラスチック素材に注目し、「何かを作ろう」と目をつけたのが、ある有名弁当に入っていた陶器製のたれ容器でした。これをプラスチックに変えたことで液体が注入しやすくなり、「タレビン」の商品名で発売。いまやお弁当には欠かせないロングセラー商品になりました。発売以降も多くの工夫を重ね、その形状は数百種類にもなっています。

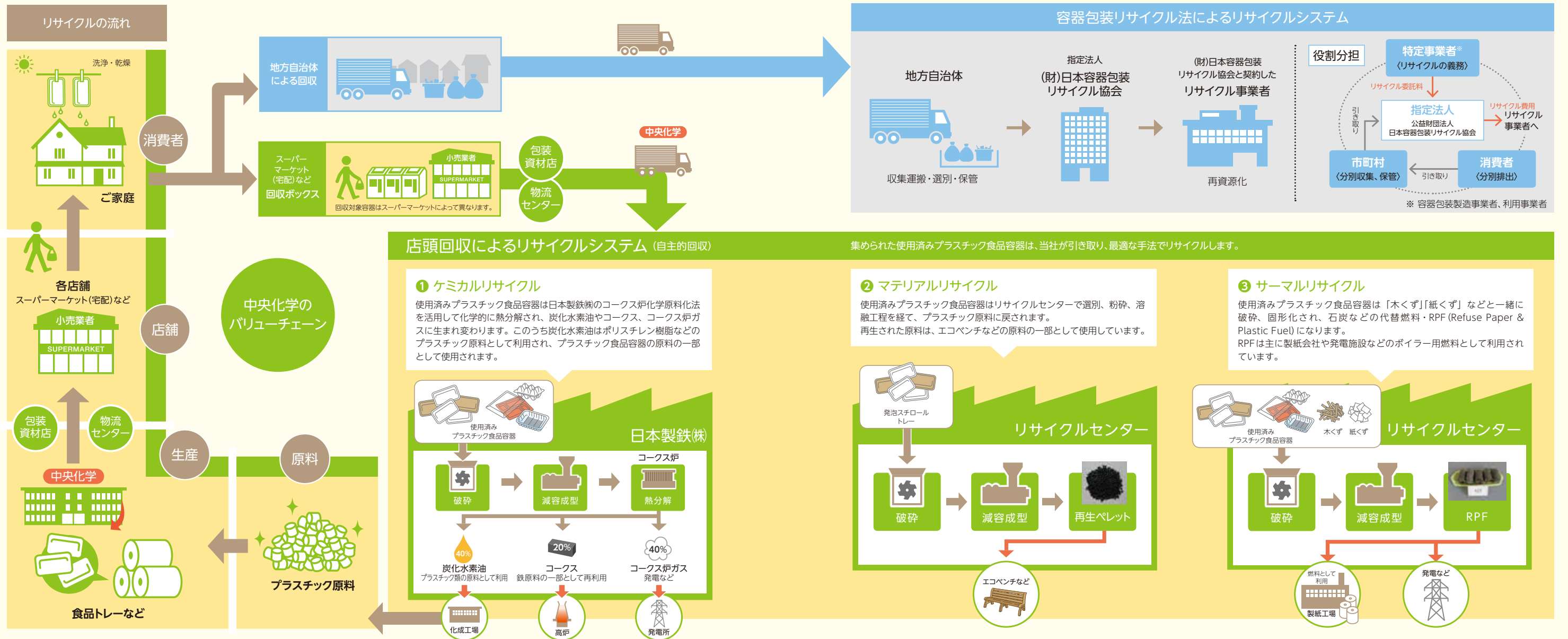
当時、プラスチックという新素材を使った商品開発は、その後も次々生まれてくる新素材開発のスタートであり、素材開発機能を持つ成型加工メーカーの原点ともいえます。「常に新しいものを」という精神こそがこれからも継承され続ける中央化学のかけがえのない財産です。



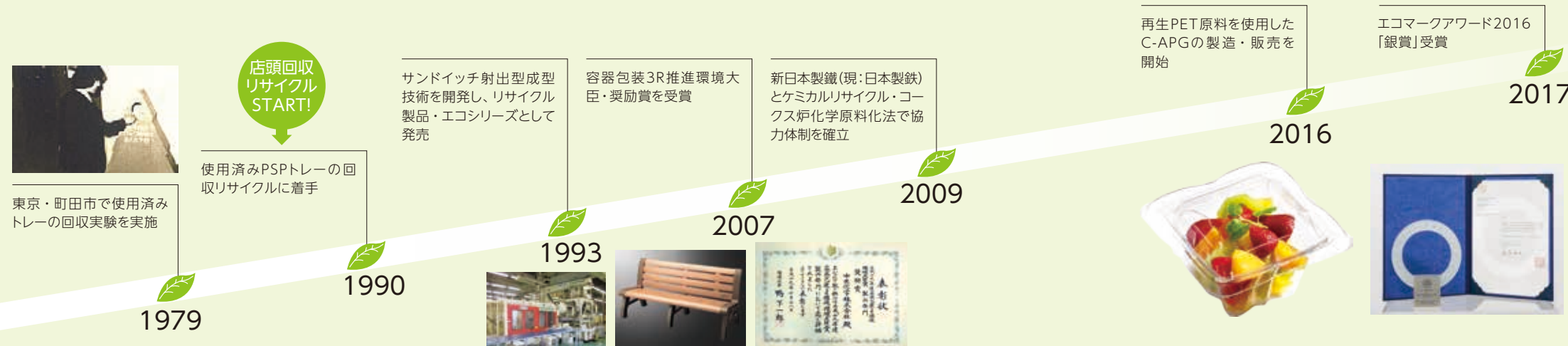


# 店頭回収リサイクルの仕組みについて

中央化学では、消費者、スーパーマーケットなどの小売店、包装資材店の皆さまの協力の下、使用済みプラスチック食品容器を小売店の店頭で自主的に回収し、さまざまなリサイクル手法で再資源化しています。また、全国の地方自治体で回収される使用済みプラスチック食品容器のリサイクルについても、容器包装リサイクル法の下、義務を果たしています。



## リサイクルの歴史



29年間の店頭回収リサイクル実績

累計(1990年から) 89,933t

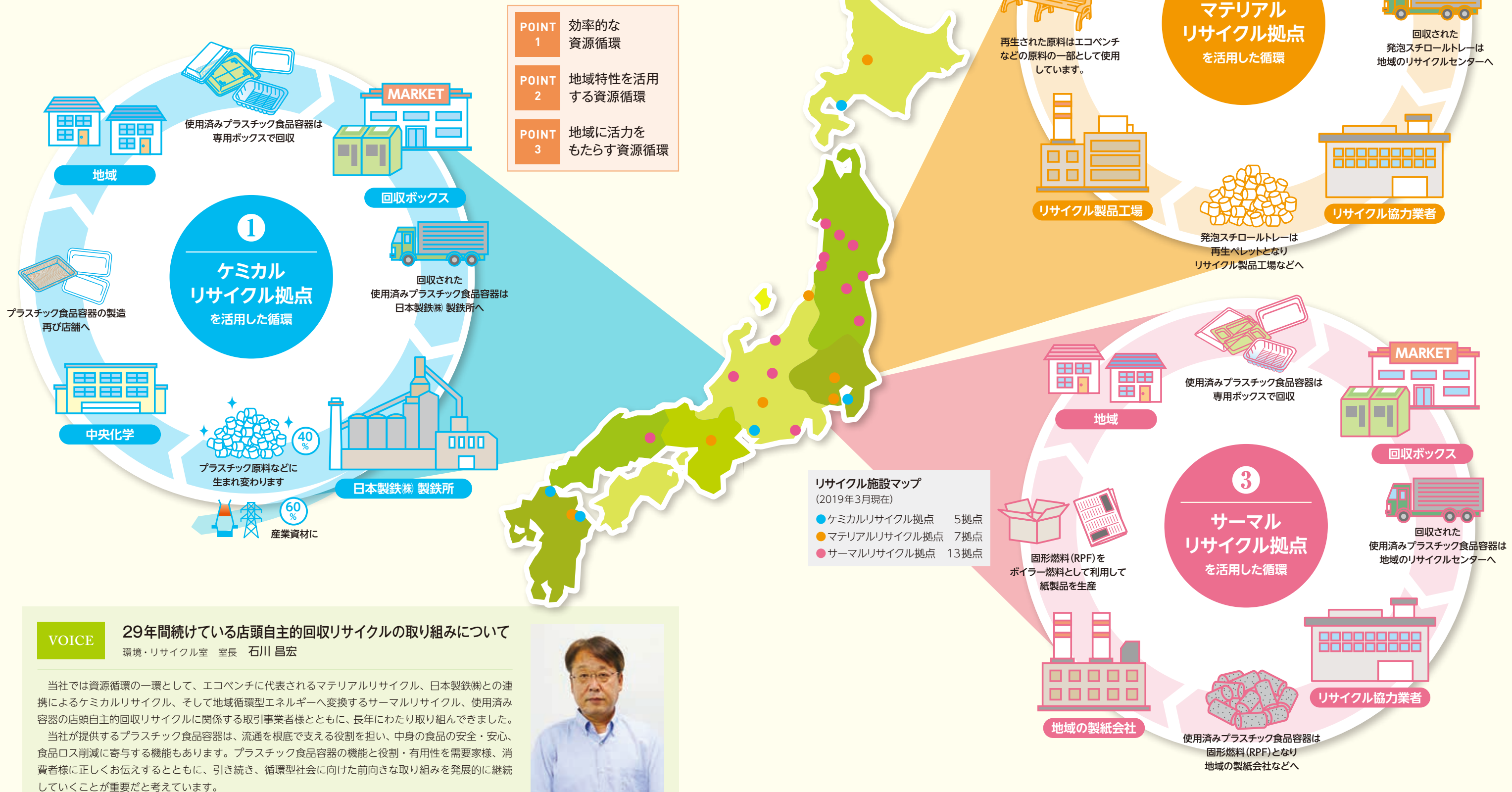
# 225億枚

※1枚4g換算



# 地域と連携した3つのリサイクル

中央化学では、地域のインフラを活用した効率的なリサイクルフローの構築を進めています。各地域で回収した使用済みプラスチック食品容器を地域のリサイクル業者と協力して再資源化することで、輸送距離が短く、環境負荷が少ないリサイクルを実現し、地域活性化にもつなげています。



## VOICE

### 29年間続けている店頭自主的回収リサイクルの取り組みについて

環境・リサイクル室 室長 石川 昌宏

当社では資源循環の一環として、エコベンチに代表されるマテリアルリサイクル、日本製鉄(株)との連携によるケミカルリサイクル、そして地域循環型エネルギーへ変換するサーマルリサイクル、使用済み容器の店頭自主的回収リサイクルに関する取引事業者様とともに、長年にわたり取り組んできました。当社が提供するプラスチック食品容器は、流通を根底で支える役割を担い、中身の食品の安全・安心、食品ロス削減に寄与する機能もあります。プラスチック食品容器の機能と役割・有用性を需要家様、消費者様に正しくお伝えするとともに、引き続き、循環型社会に向けた前向きな取り組みを発展的に継続していくことが重要だと考えています。



# 持続可能な発展を支える中央化学の取り組み

中央化学は、お客様や従業員の声に耳を傾けながら、社会課題を特定し、製品の開発と流通のみならず製造プロセスや職場環境の改善、また資源循環リサイクルなどを通じて課題解決に向けた貢献をしています。

例えば、食品容器の高機能化による食品の消費期限延長や、流通途上での食品ロス削減に寄与しています。製造プロセスでは地産地消による製品の輸送距離短縮や資源循環リサイクルを通じて環境負荷低減に取り組んでいます。また、さまざまな従業員支援制度を設け、ダイバーシティ推進に取り組むことで職場環境の改善にも努めています。

## SDGs(持続可能な開発目標)とは

2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの国際目標「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を実現するために設定された、17のゴール・169のターゲットのことで、SDGsは、すべての国が解決していかなければならない、国際社会共通の課題とゴールを掲げており、持続可能な世界の実現を目指します。企業の主体的・積極的な関与を促しているのが大きな特徴で、国と企業の力で国際的な社会課題の解決に取り組めます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



〈参考〉 国際連合広報センターホームページ「持続可能な開発目標(SDGs)とは」

URL [http://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/](http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)

## SDGsと中央化学の事業の関わり

中央化学の主な取り組みを、SDGsに関連づけ、整理しました。

中央化学での主な取り組み・活動	関連するゴール
<ul style="list-style-type: none"> <li>●従業員能力開発(P.33) 階層別研修、職種・部門・目的別研修の実施 e-ラーニング制度の運用</li> <li>●教育機会の提供(P.34) 環境学習応援隊 夏休み親子環境教室 社会科見学</li> </ul>	 <p>すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ダイバーシティの推進(P.33) 女性活躍推進法による改革 特別支援学校職場実習受け入れ ミャンマーからの技能実習生受け入れ</li> </ul>	 <p>ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る</p>  <p>国内および国家間の不平等を是正する</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ワークライフバランスの推進(P.31-32) 各種両立支援制度の充実</li> <li>●働きやすい職場づくり(P.32) 長時間労働防止の徹底 リフレッシュ休暇制度の運用 メンタルヘルスケア実施</li> </ul>	 <p>すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ケミカルリサイクルの推進(P.22-25)</li> <li>●使用済みプラスチック食品容器のリサイクル(P.22-25)</li> <li>●地域循環型リサイクルの推進(P.24-25)</li> <li>●PET樹脂製品のリサイクル(P.29)</li> <li>●安全性に配慮したリサイクル製品の提供(P.29)</li> <li>●廃棄物の発生と再資源化(P.41)</li> </ul>	 <p>都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする</p>  <p>持続可能な消費と生産のパターンを確保する</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域循環型リサイクルの推進(P.24-25)</li> <li>●埼玉県地球温暖化対策推進条例への対応(P.36)</li> <li>●第三次環境負荷低減5カ年計画(2017~2021年)(P.37)</li> <li>●ハイブリッドカーの導入(P.40)</li> <li>●バッテリー式フォークリフトの導入(P.40)</li> </ul>	 <p>気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る</p>



# 安全・安心をご提供するために

「食」に関わる企業として、製品の衛生・安全性の確保は私たちの第一責務と考えています。

## SDGsとの関連性



## 安全に関するコンプライアンス

中央化学では食品に直接触れるプラスチック食品容器の衛生・安全性を何よりも重要と考えています。

関係法令「食品衛生法」、「食品安全基本法」や業界自主基準の遵守はもちろんのこと、自社基準を設けて製品の衛生・安全性を担保しています。

### 1 自社基準

素材研究、製品設計、製造工程などにおける管理と従業員教育を徹底し、製品の衛生・安全性を確保しています。



### 2 業界自主基準

#### ●ポリオレフィン等衛生協議会

食品用のプラスチックの安全性をリスク評価に基づいたポジティブリストにより管理している団体です。また、製品の安全性を証明するため確認証明制度を運営しています。

#### ●PETトレイ協議会

日本で唯一食品用の再生プラスチックに関する自主規制基準を運用する団体です。安全面においては厚生労働省再生プラスチック指針に準拠するとともに、それを補完する自主規制基準を策定、運用しています。

### 3 法令

#### ●食品衛生法

食品衛生法では、「食品用の容器包装は清潔で衛生的でなければならない。有毒、有害な物質を含んでいてはならない。人の健康を損なうおそれのある容器包装を、販売・使用してはならない」としています。

#### ●食品安全基本法

食品安全基本法では、「食品の安全性の確保は科学的知見に基づき国民の健康への悪影響が未然に防止されること」としています。

## 容器包装の安全に関する規制の動向

改正食品衛生法が2018年6月に交付されました。

プラスチック製食品用器具・容器包装分野における改正点は次の3点です。

- ポジティブリスト(PL)制度の導入
- 一般衛生管理、適正製造規範の導入
- 営業届出制の導入

今般の新たな規制の導入によって、社会全体の安全性が向上することが期待されます。

特にポジティブリスト(PL)制度の導入では、これまで任意であった業界自主基準への適合から、新たに国が制定するPLへの適合が義務づけられることとなります。さらに、サプライチェーン間におけるPL適合情報の説明伝達が求められることとなり、確認証明書が有効に活用できると考えられます。

### 容器包装分野におけるポジティブリスト(PL)の意味

食品容器のリスクは、食品との接触により容器中に含まれる化学物質が食品に移行し、人が食べてしまうことです。このリスクを回避・管理するためにPLが用いられています。

#### ポジティブリスト(PL)

安全が確認されている物質のみ使用を認める

すべての物質は使用禁止の状態です…

リスク評価に基づいて安全に使用できる範囲(用法・用量・濃度など)を付記した物質のリスト

#### ネガティブリスト(NL)

リストにある物質のみ規制  
その他の物質は規制されない

すべての物質は使用可能な状態です…

毒性や環境影響などの科学的評価に基づいて使用を制限(禁止)する物質のリスト

当社製品は旧来より業界自主基準のPLに適合しており、今後国が制定するPLは業界自主基準をベースに構築されると考えられることから、引き続き安心してご利用いただけます。

## リサイクル製品の安全性

### 中央化学の新たな挑戦「リサイクル製品」

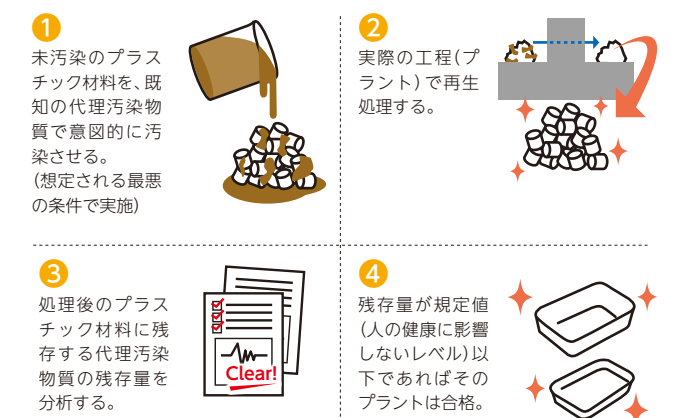
食品容器メーカーとして製品の安全性にこだわってきた当社は、従来より「安全と環境」を両立できるケミカルリサイクルを推進してきました。

しかし、近年のマテリアルリサイクル技術の進歩、厚生労働省の再生プラスチック指針(ガイドライン)の発出、PETトレイ協議会自主規制基準の整備など、使用済みのPET樹脂製品(飲料ボトル)を食品容器へリサイクルする環境が整ったことから、CHUO A-PET GREEN(C-APG)を上市しました。



### 科学的に安全を検証する「代理汚染テスト」

再生プラスチックの安全性を証明するためのテストです。未汚染のプラスチック材料を、既知の化学物質(代理汚染物質)で意図的に汚染させ、実際の再生処理工程を経ることにより、代理汚染物質が人の健康に影響しないレベルまで取り除かれることを検証することで再生プラスチックの安全性を証明します。



リサイクル製品は熱処理などによる着色や色調のムラが生じることがありますが、食品中に溶け出すことはなく、安全性に問題はありません。

### VOICE

## 食品衛生法の改正にあたって

品質保証室 代本 直

食品衛生法が改正されました。私たちの業界にとって最も大きな変化は、法律としてポジティブリスト(PL)制度が導入されたことです。業界内で自主規制として運用されてきたPLを国の制度とするためにさまざまな検討を重ねられてきました。私自身もいくつかの検討に関わる機会があり、各方面の方々にも多くのご教授いただきました。その中には既に現役を退かれたり、志半ばで鬼籍に入られた方もおられます。これら多くの関係者の努力が結実したのが今回のPL制度化だと思います。

今後は国の制度下でPLが運用され、民間がそれを補完する新しい形の関係が生まれてくるでしょう。また、安全情報を伝達する確認証明制度も変革が予想されます。先達が築いてこられた安全確保のスキームを再構築して後進に引き継ぐのが私たちの世代の役割だと思っています。



# 取引先とともに

取引先の皆さまに公正・公平な自由競争による機会を提供し、相互信頼に基づいた発展・成長を目指します。

## 公正・公平な取引

当社は、購買活動に関係する法令を遵守するとともに、お取引先さまと対等な立場で公正な取引を行います。

また、国内外すべてのお取引先さまに対して公平かつ自由競争による機会を提供します。お取引を開始する場合は品質・価格・納期・サービス・安定供給などを総合的に検討の上、選定させていただきます。

そして、相互理解を深め、信頼関係を構築しています。

## 原料の安定調達と安全性の確保

当社では、自社製品の製造工程だけでなく原料調達の面でも安全を意識し、事業を行っています。お取引先さまからPL、NL、SDS(安全シート)を頂いてから使用することで、自社で扱う原料の安全性の確保に取り組んでいます。また、各メーカーへ工場見学を依頼し、当社自身で生産工程や品質管理状況を確認させていただくことで、安全で高品質な原料の安定調達を進めています。

## パートナーシップ・ミーティングの実施

当社では、メインサプライヤー様との情報交換や意見交換の場を積極的に設けています。国内外の原料市況動向、価格推移などをレクチャーいただき、当社なりに分析して購買施策に織り込んでいます。また、各お取引先さまの当社工場見学を積極的に受け入れ、成型工程を見ていただき連携強化を図っています。緊急事態に備えた体制の整備も行っています。

# 株主・投資家とともに

企業価値を高め、持続的成長が可能な企業を目指すとともに、株主・投資家の皆さまへの適時適切な情報開示に努めています。

## IR活動

### 株主総会

当社は毎年6月に株主総会を開催しています。2018年度は、本社(埼玉県鴻巣市)にて第58回定時株主総会を開催し、事業および業績の報告をしています。



### 株主通信

株主の皆さまに対し、年2回の株主通信を通して、当社トップのメッセージや事業報告などの情報を発信しています。株主通信は、当社ホームページ「IR情報」の「決算報告・株主通信」に公開をしています。



### 決算説明会、個別ミーティング

機関投資家・証券アナリストを対象とした決算説明会を、6月と11月の年2回開催しています。2018年度に行った決算説明会では、決算報告や今後の取り組みなどを説明しました。また当社では、常時、個別ミーティングをお受けしています。



### ホームページでのIR情報開示

東京証券取引所(JASDAQスタンダード)の定める規則に従い、株主・投資家の皆さまに対し、ホームページでの適時適切なIR情報開示に努めています。

# 従業員とともに

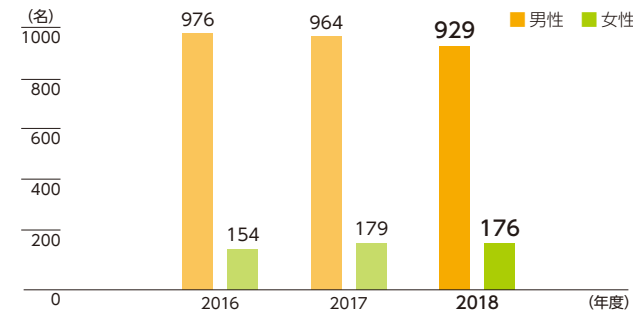
従業員一人ひとりの働きがい向上を目指しています。従業員の各ステージに合わせた能力開発や、プライベートでも従業員を支援するさまざまな制度を用意することで、安心して働くことができる職場環境づくりに注力しています。

## SDGsとの関連性



## 従業員の状況

従業員数(単体)



新規採用者(新卒)採用実績(単体)

	2016年度	2017年度	2018年度
男性	30名	24名	20名
女性	16名	15名	15名

障がい者雇用率

	2016年度	2017年度	2018年度
雇用率	1.9%	2.0%	2.0%

平均勤続年数(2018年度末時点)(単体)

	全体	男性平均	女性平均
平均年数	16.6年	17.6年	11.5年

## ワークライフバランスの推進

当社では、年次有給休暇制度のみならず、育児や介護と仕事を両立する従業員をサポートするための休暇制度を拡充しています。介護休暇などで取得者が増加傾向にあり、制度利用の浸透が徐々に見られています。今後も従業員の声を取り入れながら、ワークライフバランスの推進に努めていきます。

### 短時間勤務制度

当社では、子どもが小学3年生まで短時間勤務制度の取得が可能です。直近4年間の育児休業取得者は全員短時間勤務制度を利用し、職場復帰しています。

また、介護を必要とする家族がいる従業員も短時間勤務制度を利用し、休暇を取得できます。

有能な従業員がフルタイムで勤務ができないことを理由に、退職や雇用形態の変更を余儀なくされることなく、育児・介護と仕事が両立できています。

### 育児休業制度

当社では、直近4年間で出産を理由に退職した従業員はならず、職場復帰支援にも力を入れています。

育児休業取得者数

	2016年度	2017年度	2018年度
取得者数	1名	3名	4名

※2019年度は5名以上取得予定

育児休業復帰率



## 男性で初めて育児休業を取得

生産管理部 丸山 達也

初めての子育てで、少しでも妻のサポートができればという思いと、子どもと少しでも関わりを持ちたいと思い育児休業を取得しました。期間中は育児の大変さが身に染みて分かったため、取得後は平日含め今まで以上に家事・育児に関わるようになりました。そのため、仕事も時間内に終わることをより一層意識するようになりました。取得に悩んでいる男性は是非取得してみてくださいはいかがでしょうか。きっと奥さんから喜ばれると思います。





## 従業員とともに

### 子の看護休暇制度

当社では、子どもが小学3年生を終えるまで「子の看護休暇制度」を利用することが可能です。オフィス内勤者だけでなく工場スタッフの取得者も毎年増加しています。制度を利用しやすい組織風土づくりにも注力しているため、男性従業員の取得も増加しており、男性の育児参加への活用にも一役買える制度となっています。

#### 子の看護休暇取得状況

	2016年度	2017年度	2018年度
年間取得者数	24名	22名	25名
総取得回数	116.5回	108回	117回
取得回数(1人当たり)	4.9回	4.9回	4.7回
取得日数(1人当たり)	4.1日	4.0日	4.0日

### 介護休暇・介護休業制度

変わりやすい介護環境に合わせて休暇・休業の申請ができるよう、法令よりも緩やかな制度としています。介護休暇においては会社所定の要介護基準表に従業員が必要事項を記載することで取得申請ができるため、取得者の増加に繋がっています。

従業員が安心して利用できる制度を設けることで、仕事と介護の両立を支援しています。

### 働きやすい職場作り

#### 長時間労働の防止策とノー残業デー

当社では、長時間労働を減らし、仕事の効率を向上させることを目的に、土日および22時以降の就業を基本的に禁止しています。さらに、毎週水曜日および毎月最終金曜日を定時退社日(ノー残業デー)に設定しています。全社を挙げて定時退社を促進することで、仕事の進め方が見直されるとともに、スキルアップやプライベートの充実によるリフレッシュにつながり、さらに生産性が向上すると考えています。

#### 平均月間労働時間の推移

	2016年度	2017年度	2018年度
平均月間労働時間	171.9時間	169.2時間	167.3時間

### リフレッシュ休暇

当社では、年1回、従業員が希望する日に特別休暇を与える「リフレッシュ休暇制度」を導入しています。当社で働くことに対するモチベーション向上および休暇取得の奨励によるワークライフバランスの向上を進めていきます。

### メンタルヘルスケア

当社では、メンタルヘルス対策の一環として、従業員やその家族が心身の悩みを相談できる、健康・医療相談および専門家によるカウンセリングの窓口を設置しています。

また、不調の早期発見や休職者などのフォローのために、専門家によるサポートを強化するなど、個人のストレスへの気づき、対処支援の両面の対策を講じ、風通しの良い働きやすい職場づくりを目指しています。

### 従業員代表制度

当社では、労使間のコミュニケーションを重視し、職場より選出した「職場委員」が、年2回、従業員の意見や職場の問題点を聞き取り、各職場委員で議論をする「従業員代表会」を設けています。

ここで議論した内容のうち、労務面に関するものは従業員代表会と会社側とで行う「共同会合」の場でも取り上げ、より良い職場環境づくりに従業員の声を反映させる取り組みを行っています。

例えば「共同会合」で話し合われた夏季休暇の時期の希望に沿って就業規則を変更するなど、従業員の声を大切にしています。



## ダイバーシティの推進

### 女性活躍推進法による改革

男女を問わず、全員が活躍できる企業を目指すとともに、女性従業員がワークとライフの両立と充実を図り、能力を十分に発揮してキャリア選択ができるよう、女性リーダー育成のための選抜プログラムを、2017年11月より全5セッション実施しました。

今後は、本人の能力や意欲、キャリアビジョンを考慮しながら、人材の配置、育成、登用を実施していきます。

**WEB** 女性活躍推進法に基づく行動計画の詳細は当社ホームページをご参照ください。  
<http://www.chuo-kagaku.co.jp/wp/wp-content/uploads/2016/07/jyouseikatuyyakusuisinn.pdf>

### 特別支援学校職場実習受け入れ

障がい者雇用促進の一環として、地域の特別支援学校と連携し、毎年職場実習の受け入れを行っています。2018年度は、埼玉県内から2名の生徒が本社で約1週間、主にデータ入力をメインとする事務作業を行いました。職場実習を通じ、障がい者が働きやすい職場環境を整えとともに、今後も、より多くの障がい者の方の雇用に結び付けられるよう取り組んでいきます。

### ミャンマーからの技能実習生受け入れ

当社では2017年度よりミャンマー連邦共和国から技

能実習生を受入れています(2017年度:28名、2018年度:18名、2019年度:32名予定)。実習生が将来、同国の経済発展と産業振興の担い手となることを期待しています。



## 従業員能力開発

当社では、従業員個人の成長が企業の発展につながることを考え、能力開発に注力しています。若手・中堅・管理職向けの階層別研修、職種・部門・目的別の研修を実施しているほか、社外セミナーの受講機会も設けています。

また、新入社員の育成においては指導役の先輩従業員をインストラクターとして任命し、日々の業務の中で指導にあたっています。新入社員への教育を通して、指導役の従業員もコミュニケーションや人材育成の重要性を学ぶ機会となっており、インストラクター自身の成長にもつながっています。

このほか、自発的に学ぶ風土醸成と自己啓発や資格取得を目指す従業員へのサポートの一環として、eラーニングの制度を試験導入しました。従業員は複数の講座の中から希望する講座を好きな時間に受講でき、知識・スキル向上のツールとして無料で利用できます。



### 女性リーダー研修を受講して

管理部 坪井 薫

自らの考えを発表する研修の最終課題「役員プレゼン」をやり遂げることで、自分の考えを持ち、発信するという大切さを学ぶことができました。今では、自部門の課題を意識し、業務の改善に向けた行動を上司に相談できるようになり、改善が進むことで仕事がやりやすくなったと実感できます。今後も仕事をしやすい環境を整え、サポートできるよう、研修で学んだことを活かしていきたいです。





# 地域社会とのつながり

「地域との共生」を合言葉に、社会科見学の実施、地域行事への参加、清掃活動など多くの活動を行い、地域とのつながりを大切にしています。

SDGsとの関連性



## 環境学習応援隊

埼玉県が実施する埼玉県環境学習応援隊に参加し、県内の小中学校で「プラスチック食品容器」や「プラスチック食品容器のリサイクル」についての出前授業を行っています。2007年の活動開始から2018年度末までに37校を訪問し、授業を実施しました。

授業では、化学実験を見て、プラスチック工作を体験し、プラスチック食品容器をリサイクルする過程でできる物に手を触れ、楽しみながら化学や環境、リサイクルに興味を持ってもらう活動を行っています。



## 夏休み親子環境教室

自治体や取引先が主催する環境教室や地域イベントに積極的に参加し、地域の方々とのコミュニケーションを深めています。

2018年度は、三重県のスーパーマーケットの店頭で小学生を対象にした親子環境教室を実施し、地域の皆さまにリサイクルの大切さをお伝えしました。

今後も、環境への意識を高める活動を通して当社の企業活動、CSR活動を地域の皆さまに伝えていきます。



## 社会科見学

各工場では、地元の小学校の社会科見学を受け入れています。

社会科見学では、プラスチックの種類や工場で実施している安全衛生について学ぶほか、見学用白衣に着替え、徹底した手洗いとエアシャワーを体験し、製造工程の見学を行っています。工場内で動く無人搬送車を見た子どもたちからは大歓声が上がります。工場見学の後は化学実験や工作も行い、化学やプラスチックを身近に感じてもらう取り組みを行っています。



## VOICE リサイクルで地球を救おう

中部営業部 南部 有星

三重県内にあるスーパーマーケットの店舗にて、お子様を対象とした環境教室を行いました。プラスチック容器の仕事やリサイクル方法などを、実験やクイズを交え楽しく説明しました。実験ではウレタンの発泡実験・プラ板キーホルダー作りを体験していただきました。実験中の子どもたちは興味津々で、実際に触れてみたり、ちぎってみたりと好奇心旺盛でした。今後もこの環境教室を通じて、プラスチック容器の便利さや、限り有る地球資源の大切さを伝えていけたらと思います。



## 消防訓練(本社)

本社にて消防訓練を行いました。例年実施している項目に加え、2018年度は初となる煙テントによる避難訓練を体験しました。

今後も地元の消防署と連携を図り、定期的に消防訓練を行っていきます。



## パンジーマラソン(本社)

2019年3月に埼玉県鴻巣市主催の「第37回パンジーマラソン」が開催されました。

大会会場にはとん汁の無料サービスコーナーがあり、地元企業である当社はとん汁容器の協賛を行いました。

当社の容器に入ったとん汁をほお張る大勢の方々をみると、仕事の達成感を感じます。



## クリーン活動(関東工場)

工場周辺の地域貢献として、毎月1回美化清掃活動を行っています。工場周辺や工場前の埼玉県道46号線沿いを中心にペットボト



ル・空き缶の回収やゴミ拾いを行っています。

2019年2月で119回となりました。拾ったゴミの総重量は約840kgです。今後も地域の美化活動に貢献していきたいと考えています。

## たけのこまつり(山梨工場)

山梨工場は、地元南部町で開催される「たけのこまつり」に毎年積極的に参加しています。2018年度も模擬店を出店しましたが、オープン前から行列で大盛況でした。

今後も地域行事の参加を通じて、地域住民の方々と交流を深めていきたいと思ひます。



## 消火技術競技大会(山梨工場)

峡南広域行政組合消防本部主催の第37回消火技術競技大会に2種目、2名参加しました。屋内消火栓の部では5位に入賞し、敢闘賞を受賞しました。





# 環境マネジメント

中央化学では環境基本方針、企業行動基準に沿って、環境マネジメントシステム推進や地域環境条例への対応を行っています。

SDGsとの関連性



## 環境基本方針

私たちは、社是である全員創意の精神で、企業理念にうたわれている地球環境の保全と限りある資源の保護に努め、国内外の地域文化を尊重し、社会の調和に努めます。

## 企業行動基準 (環境活動について)

- 地球環境の保全や環境に関する法令を遵守し、省エネルギーや、省資源・環境負荷低減素材・製品の開発・販売・廃棄物の削減などの環境活動を推進する。
- 地球温暖化防止のため、CO<sub>2</sub>削減、省エネルギー対策を積極的に推進する。
- 製品開発にあたっては、省資源、CO<sub>2</sub>削減、非石油資源の利用を図った設計・素材開発を行い、次世代の製品を創出する。
- リサイクルにあたっては、衛生・安全性の遵守、経済性の確保を図り、循環型社会の形成に寄与する。
- 廃棄物の削減と再資源化を推進して、適正な処理・処分を行う。
- 当社製品の環境への関わりについて環境啓蒙活動を推進する。

## 環境マネジメントシステム

岡山工場では、ISO14001：2015の定期審査を受け、認証を継続しています。今回も2018年10月23日付けで認証継続の手続きが完了しました。引き続きエネルギーの効率的運用や廃棄物の再資源化、CO<sub>2</sub>排出量の削減などにも取り組んでいます。

また、全国の工場では生産・技術本部が主体となり、省エネルギー、省資源活動、生産性の向上、品質向上などをテーマに各種改善活動を積極的に推進しています。

## 埼玉県地球温暖化対策推進条例への対応

埼玉県地球温暖化対策推進条例(2009年施行)に対応するため、埼玉県内の工場では事業活動や自動車の使用に伴う温室効果ガスの排出抑制などに取り組んでいます。毎年、各事業所で事業活動に伴う温暖化対策として電気、ガス、燃料などのエネルギー使用量を把握し、温室効果ガス排出量を算出しています。算出結果は「地球温暖化対策計画書」、「地球温暖化対策計画実施報告書」として埼玉県に提出しています。



埼玉県への提出書類

## 環境会計

岡山工場の工業用水循環ポンプおよび冷却水ポンプと北海道工場の再生押出機主モーターを省エネタイプの高効率モーターに更新しました。この更新により年間使用電力量の削減ができ、結果としてCO<sub>2</sub>排出量の削減につながりました。更新前と比較するとCO<sub>2</sub>排出量は年間78.2t-CO<sub>2</sub>削減となりました。

効果金額	削減電力量
2,500千円/年	140.9千kWh/年



※CO<sub>2</sub>排出係数=0.555t/千kWh

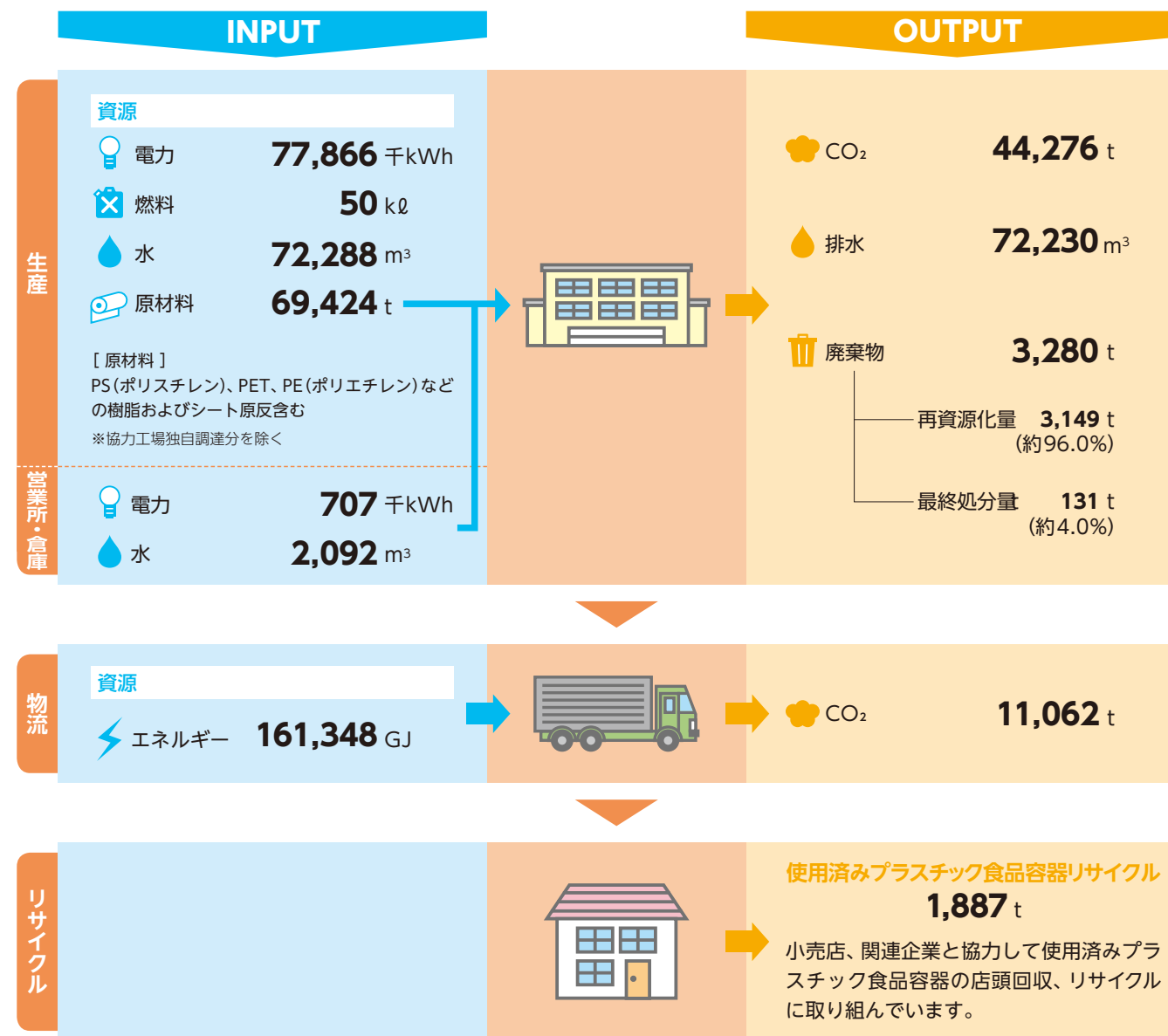
## 第三次環境負荷低減5か年計画(2017～2021年)

テーマ	取り組み内容	目標(達成年2021年度)	2018年度の主な活動と成果	評価	参照ページ
1 地球温暖化防止	① エネルギー使用量の削減	① エネルギーの使用に関わる原単位(電力原単位) 2016年度比10%削減	2016年度比0.8%削減 前年度比4.2%削減	△	P.39
	② 素材・製品の環境影響評価手法の検討	② 製品別CO <sub>2</sub> 排出量算定システムの構築・改善 CO <sub>2</sub> 排出量の削減手法の検討	素材切り替えごとに、社内でCO <sub>2</sub> 排出量算定実施。システム構築は、2019年度に検討	△	-
2 廃棄物の削減	① 社内廃棄物の再資源化	① 社内廃棄物の再資源化推進でゼロエミッション活動の推進	・事務服・作業服などを地方自治体の回収日に提供し、リサイクルを実施 ・上質紙や雑紙、ダンボールなどを業者に売却し、リサイクルを実施 ・試作品など使わなくなったトレーを業者に売却し、リサイクルを実施	△	-
	② 使用済みプラスチック食品容器の店頭回収・リサイクルの推進	② 使用済みプラスチック食品容器の店頭回収 ・地域循環型リサイクルの推進 ・循環型包装容器の実用化	地域のリサイクル協力事業者、取引先、消費者とともに、地域に合った効率的、且つ環境負荷の少ないインフラへ再構築を推進	○	P.22～25
	③ 循環型リサイクルによる3R推進の普及・啓発活動	③ 社内外への啓発活動の推進	取引先向けリサイクル施設見学会の実施、展示会出展などによるリサイクル活動の情報発信	○	P.34
3 環境配慮型製品の提供	① 新素材開発など、生産技術の高度化による環境配慮型素材の開発・実用化	① 環境配慮型素材への移行・集約の推進	環境対応素材「C-APG」[タルファー]の拡販推進中	△	-
	② 素材変更、形状デザインの改善などによる製品の軽量化・薄肉化の推進	② 製品設計による省資源化の推進	CNトレー軽量化 前年度比：1%増量	×	-
4 グリーン購入の推進	① 原材料・副資源、機材などグリーン購入の推進	① 社内グリーン調達基準策定および運用	・引続き環境への負荷等を最大限考慮したグリーン調達基準導入を検討 ・原材料調達に際し、PL確認証明書を仕入先より取得し、その含有物質等が本邦法令に遵守していることを都度確認	△	-
	② 低公害車、事務用品、機器などグリーン購入の徹底	② ハイブリッドカー導入80%	導入率72%で、前年とほぼ変わらず	△	P.40
5 環境コミュニケーション・社会貢献の推進	① 企業市民として地域との共生	① 情報開示・PR活動・社内外コミュニケーションの強化	パンジーマラソン等地域イベントに協賛	△	P.34～35
	② 工場見学、埼玉県環境学習応援隊など環境教育の推進	② 社内外への広報活動、工場見学の推進	工場見学など適宜推進中	△	P.34
	③ 地域清掃など社会貢献活動の強化	③ 地域ボランティアへの協賛・寄付、ボランティア活動などの推進	容器提供など適宜推進中	△	P.35

# 事業活動におけるマテリアルバランス

事業活動の過程で投入したエネルギーや資源(インプット)と、活動によって発生した環境負荷物質(アウトプット)をあらわしています。当社では、事業活動における環境負荷の把握に努め、これからの削減につなげていきます。

SDGsとの関連性



※ 電力の排出係数：0.555kg-CO<sub>2</sub>/kWh(固定)

スコープ3	排出量(千t-CO <sub>2</sub> )	スコープ3	排出量(千t-CO <sub>2</sub> )
カテゴリ1：原材料の購入・製造等	116	カテゴリ4：物流(上記マテリアルバランス再掲)	11
カテゴリ2：資本財投入	3	その他カテゴリ：(5：廃棄物、6：出張、7：通勤)	1
カテゴリ3：エネルギー関連	3		

# 環境への配慮

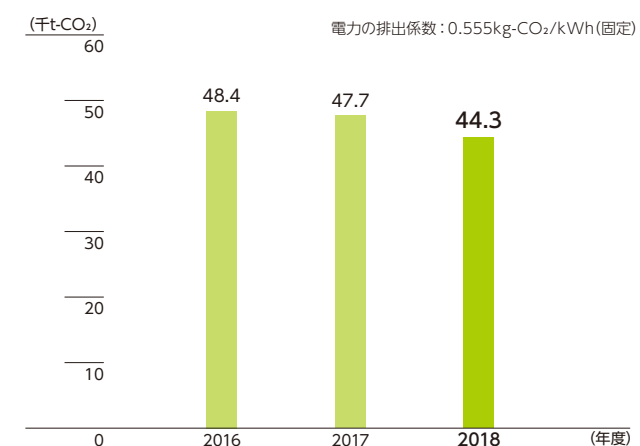
事業活動の過程において、設備の更新・改修を行うとともに高効率設備の導入等、省エネ改善活動を推進しています。

SDGsとの関連性



## CO<sub>2</sub>排出量

**生産**  
 2017年度の47.7t-CO<sub>2</sub>から、2018年度は44.3t-CO<sub>2</sub>に減少しました。



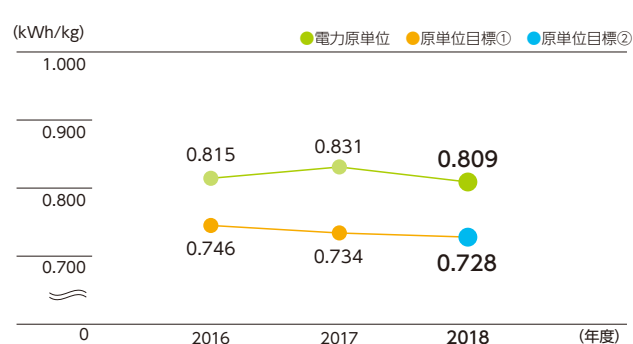
**物流**  
 2017年度の12,860t-CO<sub>2</sub>から、2018年度は11,062t-CO<sub>2</sub>に減少しました。

項目	2016年度	2017年度	2018年度(前年度比)
輸送量(千トンキロ)	37,921	37,132	31,947 (86.0%)
CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> )	12,858	12,860	11,062 (86.0%)

※昨年度掲載したときの集計方法と計算方法が異なるため、昨年度までのデータも同基準で再集計しています。

## 電力原単位

2018年度は前年度の電力原単位に対し約3%改善しました。主な要因は、鴻巣工場を関東工場へ、九州工場を岡山工場へ一部設備を移管集約したことです。



## 省エネ改善

2018年度、2工場において工場内の蛍光灯および構内の外灯をLED照明に更新しました。

また、経年劣化しているモーターを高効率モーターへ更新して消費電力の削減を実施しました。

今後も物流倉庫と工場内照明のLED化を推進してCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組みます。

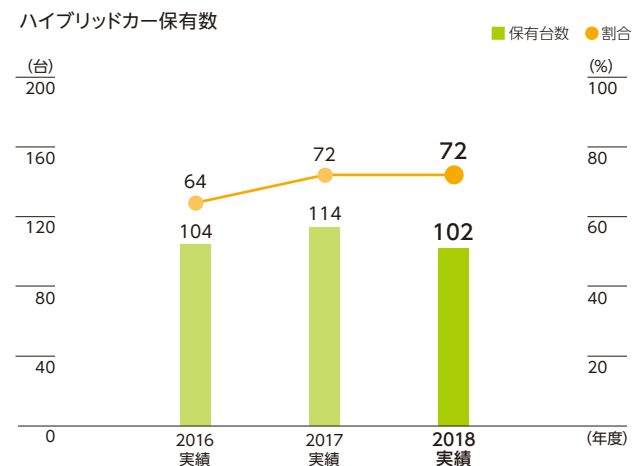




## 環境への配慮

### ハイブリッドカーの導入

営業活動による環境負荷低減のため、以前よりハイブリッドカーの導入を進めています。2018年度は12台のハイブリッドカーを更新しました。今後もハイブリッドカーの更新を進めていきます。



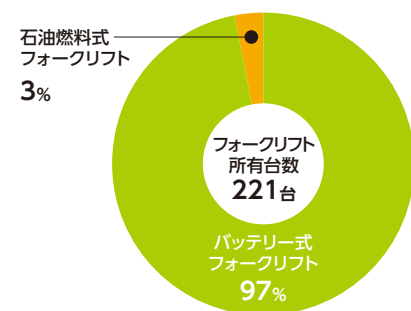
### バッテリー式フォークリフトの導入率

生産現場における環境負荷低減のため、各工場や本社で用いるフォークリフトを石油燃料式からバッテリー式へ切り替えを進めています。

全体で221台所有しているフォークリフトのうち、2018年度までに全体の約97%にあたる214台がバッテリー式に切り替わっています。

2019年度以降も計画的にバッテリー式フォークリフトへの切り替えを行っていきます。

フォークリフトの種類分布



### VOICE 生産現場の省エネ活動を通じて

生産技術部 佐藤 祐樹

2017年度と比べ生産量あたりの電力原単位は減少しましたが、依然目標値には達していません。しかし近年各工場へ省エネ設備の導入により数字として電力原単位の減少を確認することができ、省エネ効果を実感しています。今後は各工場における消費電力の削減に向けて省エネ設備の導入だけでなく、さらに新たな省エネ活動を行っていきたいと思います。



## 廃棄物・水の削減

各工場、各事業所で廃棄物の再資源化や省エネ活動を推進しています。

### SDGsとの関連性



### 廃棄物の発生と再資源化

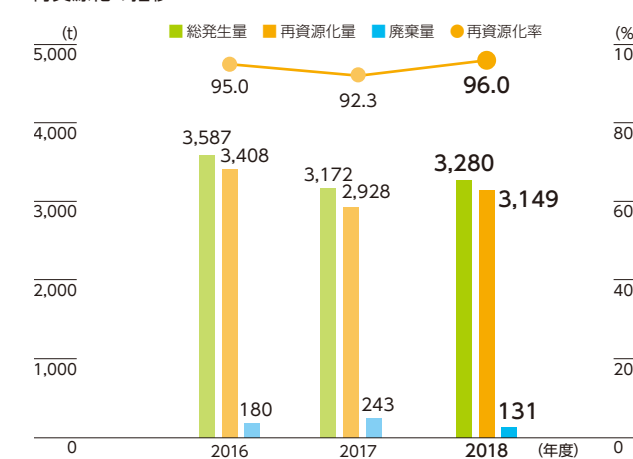
2018年度の廃棄物発生量は3,280tで、そのうち96.0% (3,149t) が再資源化され、有効活用されました。その廃棄物の内訳は主に廃プラスチック、紙くず、金属くず、木くず、廃油となっています。

また、廃棄物の再資源化推進のため、PS(ポリスチレン)、PP(ポリプロピレン)、PET、PE(ポリエチレン)などのプラスチック素材別回収や、紙くずの分別回収などを積極的に実施しています。

2018年度廃棄物発生量と再資源化量

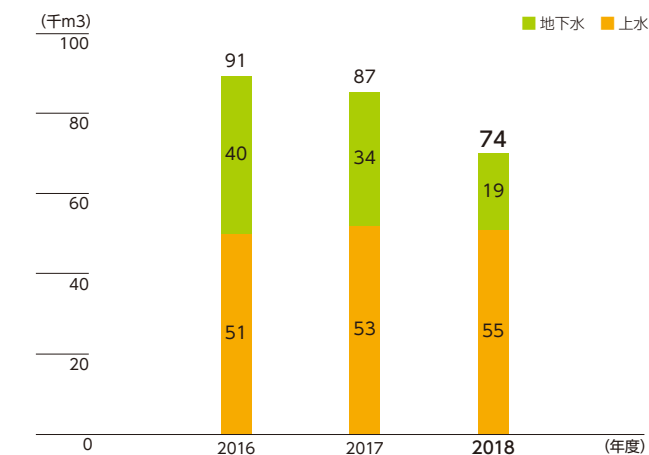


再資源化の推移



### 水使用量

今年も引き続き、山梨工場は工業用水配管の改修工事を第二期計画として実施しました。



# コーポレート・ガバナンス

中央化学は、コーポレート・ガバナンスの充実・強化を経営上重要な課題として位置づけ、コンプライアンスの徹底、経営の透明化、健全性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させて、企業価値の最大化に取り組むことを基本的な考え方としています。

## コーポレート・ガバナンス体制

当社は、意思決定の迅速化と業務執行の効率化を目的に執行役員制度を採用しています。取締役の任期については1年とし、取締役の責任の明確化を図っています。また、内部監査機能として社長直轄の監査室を設け、実効性を高めています。会社の機関としては、会社法に規定する取締役会および監査役会を設置するとともに、主要な協議機関として社長室会、オペレーション改革会議等を設置しています。

### 1 取締役会

取締役会は、毎月1回開催するほか、必要に応じて機動的に臨時取締役会を開催し、経営に関する重要事項を審議・決定するとともに、業務の執行を逐次監督しています。

### 2 監査役会

監査役会は、監査方針や監査計画を策定し、監査役が取締役会やその他の重要会議に出席し、適宜意見を述べるとともに、監査室および会計監査人と連携を図ることによ

り情報収集、取締役からの直接聴取、重要書類の閲覧を行うなど、取締役の業務執行の適法性、妥当性を幅広く検証しています。

### 3 社長室会

社長室会は、社長および常務で構成され、原則月2回開催しており、取締役会付議案件の事前審議や、業務執行に係る課題の審議・決定などを行っています。

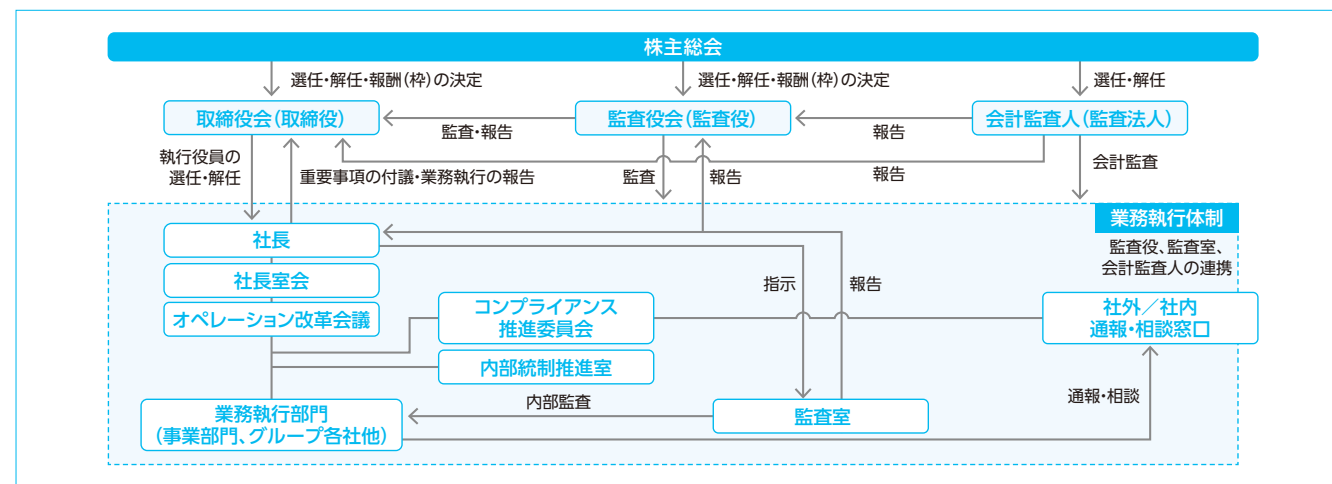
### 4 オペレーション改革会議

オペレーション改革会議は、社長、各本部長、および社長が指名したメンバーで構成され、原則として毎月1回開催し、オペレーションに関する個別議題の徹底討議、改善策の検討等を行っています。

### 5 監査室

社長の直轄の組織として、監査室が各部門の内部監査を実施します。監査室は、監査役との連携を図り、会社の業務および財産の状況を監査し、経営の合理化および効率化に資することを目的に、事業年度ごとに策定される内部監査計画に基づく監査を実施しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



# コンプライアンス

中央化学は、法令を遵守し、企業倫理に従ったコンプライアンス経営と地球環境の保全に努める環境経営を実践し、お客様、株主、取引先、地域社会、従業員などのすべての関係者から信頼される企業を目指しています。

## コンプライアンスに対する基本姿勢と推進体制(抜粋)

### コンプライアンス基本方針

当社および役員、従業員は、下記の基本姿勢に基づいて行動し、法令等と別に定める企業行動基準、社内諸規則規程等を誠実に遵守します。

- 1) 国内外の法令と社内の諸規程を遵守して行動します。
- 2) 関係する人々の人権を尊重し、社会規範および企業倫理を遵守した行動をします。
- 3) 社会的に有用な製品を提供し、お客様の満足度向上に努めます。
- 4) 関係法令および業界の自主基準を遵守して、安全で衛生的な製品を提供します。
- 5) 地球環境保全への取り組みを推進します。
- 6) お客様、株主、取引先、地域社会、従業員等に企業情報を適時かつ公正に開示します。
- 7) 職場環境を整備し、労働災害の発生防止に努め、従業員等の生命・身体・財産の危険の防止に努めます。
- 8) 社会の秩序と安全に脅威を与える反社会的勢力には、毅然とした姿勢で臨み、一切関係を持ちません。

## コンプライアンス講習会

当社では、コンプライアンス意識の醸成に向けて、社内講習会を開催しています。

ハラスメント防止の研修を全社で行ったり、外部の専門家を招いて実務者を対象とした講習会を開催するなど、当社従業員のコンプライアンスへの理解を深め、意識の向上を図っています。



コンプライアンス講習会

## 知的財産権と秘密管理の基礎知識の普及

当社では、定期的に知的財産権と秘密管理に関する勉強会や情報交換会を実施しています。その一環として、新入社員研修時に知的財産権と秘密管理の基礎を説明する機会を設け、知識の底上げを図っています。

「中央化学企業行動基準 第8章 知的財産権について」の理解から始まり、先願主義・第三者の権利不可侵・権利の理解のメンテナンスという3つのポイントを軸に、知的財産権とは何か、権利を取得するときのメリットとデメリットといった基本的な内容を押さえています。また、社内で定義する「秘密」とは具体的にどのような書類・事柄を指すかを提示し、秘密管理に対しての共通認識を養っていきます。

全員が新入社員教育で一定の知識を身に付けますが、製品開発に深く関わるマーケティング部と製品設計部に配属された社員に対しては、定期的に知財勉強会を実施しています。この勉強会では「知的財産権の営業効果」や「開発フローと知財業務」「知的財産権のトラブル事例の紹介」といった実務に役立つ内容を学習します。



知財勉強会



 **中央化学株式会社**

〒365-8603 埼玉県鴻巣市宮地 3-5-1

TEL : 048-540-2825 FAX : 048-540-1271

ホームページ : <http://www.chuo-kagaku.co.jp>

